



Title	琉球列島の地下水域に生息する甲殻類の種多様性
Author(s)	藤田, 義久
Citation	琉球大学21世紀COEプログラム「サンゴ礁島嶼系の生物多様性の総合解析」平成20年度成果発表会
Issue Date	2009-03-14
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/9843
Rights	

PS-17 琉球列島の地下水域に生息する甲殻類の種多様性
(Species diversity of subterranean-water crustaceans in the Ryukyu Islands)

藤田喜久 (Yoshihisa Fujita)

琉大学大学院理工学研究科・博士研究員／大学教育センター・非常勤講師

琉球列島には、琉球石灰岩で構成される島や地域が随所にあり、地下水系が発達している。また、地下水環境と地上との接点と言うべき湧水(井戸も含む)、洞穴地下水、陸封潮溜(地下で海と連絡している汽水)なども多数見られる。国外においては、このような「地下水環境」には特殊かつ希少な生物が生息することが知られているが、国内においては、地下水性生物に関する研究知見は極めて乏しい。演者は、昨年度より琉球列島の地下水域に生息する甲殻類の種多様性を解明する調査を開始した。本年度は、南大東島、多良間島、竹富島、小浜島、波照間島の洞穴地下水域や湧水において採集調査を行った。

研究期間中には、地下水域から5科8属9種の十脚目に属する甲殻類が採取された。チカヌマエビは竹富島からの初記録となった。また、波照間島では過去に2個体しか採集記録の無い極めて稀少なドウクツモクズガニも採集された。その際、ドウクツモクズガニが採集されたトラップ内から、モエビ類と思われるものの頭胸甲も見いだされた。残念ながらドウクツモクズガニに食べられてしまったようであるが、洞穴地下水域に生息するモエビ類の報告は極めて限られており、今後、早急に調査を行う必要がある。

また、十脚目以外の小型甲殻類の発見も相次いだ。昨年度の調査で南大東島の洞穴から採取されたテルモスバエナ目の小型甲殻類は、今年度も追加採集することができ、先日 *Halosbaena daitoensis* Shimomura & Fujita, 2009 として新種記載された。多良間島では、7～8月の調査でアミ目に属する小型種が洞穴地下水域から発見された。地下水性のアミ類はカリブ海沿岸などでは多種が報告されているが、琉球列島からの報告は無く、未記載種の可能性が極めて高いものと思われる。多良間島は、昨年度の調査で11月に訪れたが、その際にアミ類は見られなかったことから、出現には季節性があるものと予想される。従来 of 調査では、各島の調査は1度程度の調査回数であったが、出現に季節性を持つ種の存在も確認されたため、今後は、年間を通して生物相を調査する必要があると思われる。一方、カイアシ類はすべての島の地下水域から採集された。まだ、種同定には至っていないものの、今後研究を進めることで、指標生物としての利用の可能性も考えられる。

以上のように、琉球列島の地下水域からは新たな発見が相次いでおり、高い種多様性をもつ環境であることが明らかとなった。しかし、沖縄諸島の島々での調査は未だ不十分であり、今後も興味深い発見が続くものと期待される。